

“動物との共生”“癒し”の里こうし構想

本構想の背景と目的

本構想は、本市が迎える大きな成長機会を捉え、“動物との共生”“癒し”を軸に、市民の暮らしの質の向上と地域産業の創出を目指すまちづくり構想です

1-1. 本構想の概要

本市が迎える大きな環境変化

- 人口減少を迎えた日本において、本市は**人口増加が見込まれる活力あるまち**として知られている
- 特に近年では、隣接自治体への海外（台湾）大手半導体企業の進出で全国的な注目を集めており、今後、中九州横断道路開通により市内に建設予定のIC周辺の活性化及び今後のまちづくりにおける核として、（仮）西合志IC周辺は「**本市を取り巻く環境を踏まえた戦略的な機能導入地域**」と位置付けられている

本構想の位置づけ

- 本構想は、（仮）西合志IC周辺の位置づけを踏まえ、「**“動物との共生”“癒し”の里こうし**」をテーマに、市民の癒しの場の提供や関連産業立地による雇用創出等を図ることで、市全体の活性化につながる構想として位置付けている



本市は人口増加・半導体産業集積・都市開発という歴史的な成長段階にある一方で、それら急速な発展の反動による様々な地域課題が生じる可能性があります

1-2. 本構想の背景 | 本市を取り巻く環境変化

本市の現状

人口動態：人口増加が続く成長都市
- 熊本市のベッドタウンとして人口増加が継続
- 社会増により生産年齢人口・年少人口が流入
- 一方で2022年度から自然減へ転換し、2050年に向けて高齢者人口は20％超増加見込み

住環境・住民意識：地域の発展に伴う急激な変化
- 急激な都市化に伴い渋滞等の住環境への影響が顕在化
- 様々な地域や人種の住民が増えたことによる旧来の住民の困惑

産業構造：半導体産業集積による成長局面
- TSMC進出を契機に半導体関連企業が急増し、市内16拠点が立地
- 熊本県は2032年に向け半導体産業の大幅成長を想定
- ライフサイエンス産業を「第３の柱」として育成

都市整備：広域交通拠点として発展
- 中九州横断道路の整備
- 北熊本JCT/IC・西合志IC・合志ICを設置予定
- 御代志駅周辺再開発が進行、くまもとサイエンスパーク構想始動

農業と環境：豊富な水資源に恵まれた農業都市
- 施設園芸を含む畑作中心の都市近郊型農業を展開
- 乳用牛、肉用牛など畜産にも強みがある

観光：観光地としての知名度はいま一歩
- 空港からの近接性もありながら、観光地としてはあまり知られていない
- 合志マンガミュージアムがあり「マンガ・アニメを活用したまちづくり」を計画

防災環境：自然災害リスクの顕在化
- 熊本地震や令和２年豪雨など、今後も頻発する自然災害への対応が必要

想定される将来インパクト（現状の先に想定される姿）

人口動態：人口増加と高齢化が同時進行
- 中期的には若年・ファミリー層の増加による住宅需要の増加、教育・子育て需要の増加
- 長期的には高齢者人口の増加による医療・介護需要の急増と社会保障費の増加

住環境・住民意識：住環境の悪化と住民同士の分断が顕在化
- 渋滞の他に地価・家賃の上昇、緑地の減少等の更なる住環境の悪化
- 転入者と既往住民との間における地域コミュニティの二極化・分断

産業構造：半導体産業による経済成長とその反動の発生
- 中期的には雇用増加、所得向上、地価上昇、法人税収の増加、新たな企業立地
- 長期的には人材争奪、人件費高騰、地価上昇、住宅不足等の発生

都市整備：都市構造の大きな変革
- 中期的には人の流れの変化、商業集積の発生、新たな市街地の形成、土地需要の増加
- 長期的には開発の進展による渋滞の常態化、郊外化の進展、インフラ維持管理費の増加

農業と環境：半導体産業集積により懸念される農業の持続性
- 中期的には産業集積の進展による農地の減少、担い手の高齢化等による担い手不足や生産量の減少

観光：来訪者の増加により進展する観光関連施設の増加
- 中・長期的には産業観光やビジネス観光による来訪者が増加し、宿泊施設、会議場などの立地が促進

防災環境：産業集積により増大する災害リスク
- 中期的に半導体産業集積の進展による災害発生時の影響額の拡大

こうした現状や将来インパクトに対し、本構想はそれらの多くの地域課題の解決につながるものと考えます

1-2. 本構想の背景 | 本構想の必要性

現状・将来インパクトから伺える本市の地域課題

若年層の定住促進、新旧住民同士の調和・共生
急増している若年層等が一時的な居住ではなく定着し、既往住民と共生する環境・仕組みが必要

高齢化対応、健康寿命延伸
長期的には高齢者数が増加することが予測されていることから、高齢者対応や医療費削減に向けた健康増進施策が必要

半導体産業集積効果の地域還元
半導体産業の集積により人口増・税収増等の効果が得られていることから、これらを効果的に地域へ還元する施策が必要

産業の多角化
半導体産業の急激な集積により産業構造が偏重しつつあることから、リスク分散・他産業との共生の観点から多角化が必要

観光・交流人口の拡大
半導体産業の振興により来訪者が増えていることもあり、これら来訪者を観光客へつなげる観光振興施策が必要

戦略的な都市整備と防災対策
急激に整備が進む都市機能・都市基盤に対して、今後の見通しや防災対策等を見据えた戦略的な計画・整備が必要

本構想による地域課題への解決効果

ペットフレンドリーなまちづくりが若年層の住みやすさ・コミュニティ醸成に好影響
近年、若年層におけるペットの所有率が増加し、ペットフレンドリーな住居を選択する傾向にある。また、ペットを介した交流が地域のコミュニティ形成・醸成に寄与することも期待できる。本事業により本市全体がペットフレンドリーなまちへと発展することで、若年層の定住や地域コミュニティ醸成の効果が期待できる。

動物との触れ合い・共生による健康的なライフスタイルの享受
アニマルセラピーやペットとの散歩など動物との共生による健康増進効果が科学的に証明されつつある。本事業により、高齢者の動物と共生するライフスタイルが定着し、日々の暮らしの充実や健康増進効果を引き出すことが期待できる。

動物関連産業という新たな産業クラスターの形成
本事業は動物関連産業という国内でも先進的な新たな産業クラスターを形成するものであり、本市の新たな主要産業として産業の多角化に寄与することが期待できる。

国内外から誘客できるペットフレンドリーな拠点形成
ペットフレンドリーな店舗や住居等は国内外の若年層や富裕層で人気が高まっていることから、本事業によりこうした若年層・富裕層等の新たな客層を観光客として誘客することが期待できる。

災害時に人と動物が安心して避難できる拠点形成
災害時の避難場所での人と動物との共存が社会問題化している。本事業により、全国に先駆けて人と動物が安心して過ごせる拠点となることが期待できる。

さらに、動物関連産業は、市民生活との親和性や地域への波及性が高いものと考えており、半導体産業を補完する新たな成長軸となる可能性を有しています

1-2. 本事業の背景｜動物関連産業の強み

評価項目1　安定性

当該産業が**外部環境の変動に対してどの程度耐性を有しているかを評価**する観点

需要の安定性や市場の成熟度、参入プレイヤーの構造、制度的な支援の有無などを踏まえ、景気変動や国際情勢の影響を受けにくく、持続的に事業活動が維持されるかを評価
基盤産業や公共性の高い分野は相対的に高く評価される

評価項目2　継続性

当該産業が**中長期的に成長・発展し続けることが可能かを評価**する観点

技術革新の余地や市場拡大性、社会課題との整合性、人材や投資の流入可能性などを踏まえ、一過性ではなく継続的に価値創出が行われるかを判断
将来需要の確実性や政策的な位置づけも重要な評価要素となる

評価項目3　波及性

当該産業が**他産業や地域経済、生活者に対してどの程度広がりを持つかを評価**する観点

関連産業の裾野の広さや雇用創出効果、消費喚起への寄与、他分野との連携可能性などを踏まえ、単独で完結せず経済全体に好影響を及ぼすかを判断
BtoC領域やサービス産業は相対的に高く評価される傾向にある

評価項目4　時間軸

当該産業において**投資や取組の成果が顕在化するまでの期間を評価**する観点

研究開発から事業化までのリードタイムや市場立ち上がりの速度、収益化までの期間などを踏まえ、短期的に成果が得られるか、あるいは中長期を要するかを判断
テック領域は長期、サービス・消費領域は短期と評価される傾向にある

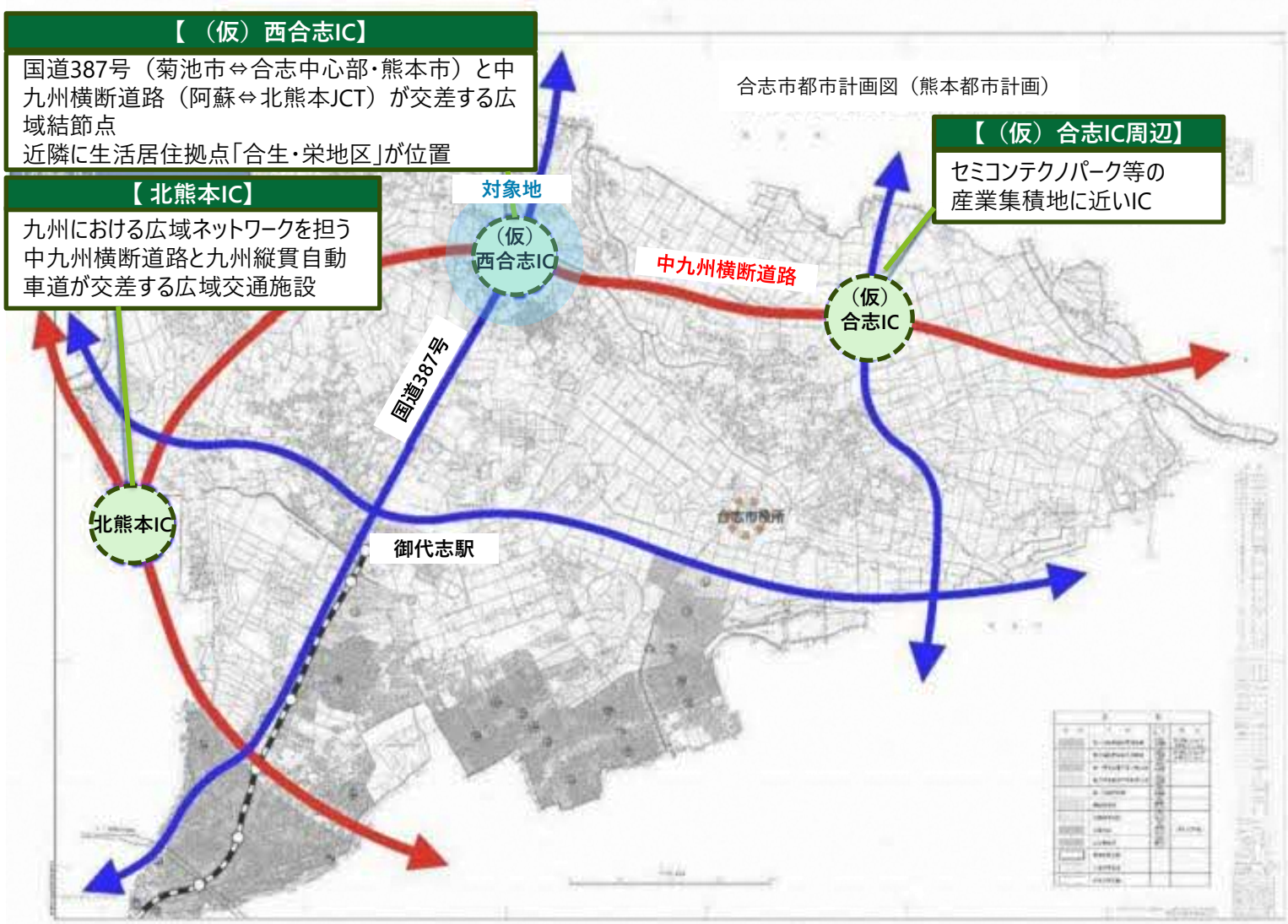
	安定性	継続性	波及性	時間軸	
半導体産業	国策や地域支援は強固だが景気循環の波がある	半導体やAI、自動運転の社会実装といった将来需要の確実性は非常に高く、技術革新の余地がある	製造関連、雇用、周辺道路などの整備に時間を有する生活インフラに影響する	インフラ整備や制度整備に時間を要し、成果発現は長期に及ぶ	政策支援により高い成長性が見込まれる一方、波及性や時間軸の面では本構想に比べて課題が残る
動物関連産業（本構想）	ペット需要は底堅く景気変動の波を比較的受けにくい成熟した市場	日本の社会課題（健康寿命の延伸や孤独解消）とマッチしやすく中長期的に必要とされ続けやすい	BtoC・サービス・観光に直結し、市民生活に近い消費喚起を生む	サービス・観光領域として、部分成果が早期に顕在化しやすい	生活者に近く波及性は高いが、継続には基盤整備と構想整理が必要

対象地は国道387号と整備予定の中九州横断道路の広域結節点に立地しており、周辺は居住地が広がっています

1-3. 対象地の位置・特性 | 対象地の位置（広域図）

【（仮）西合志IC】
国道387号（菊池市⇔合志中心部・熊本市）と中九州横断道路（阿蘇⇔北熊本JCT）が交差する広域結節点
近隣に生活居住拠点「合生・栄地区」が位置

【北熊本IC】
九州における広域ネットワークを担う中九州横断道路と九州縦貫自動車道が交差する広域交通施設

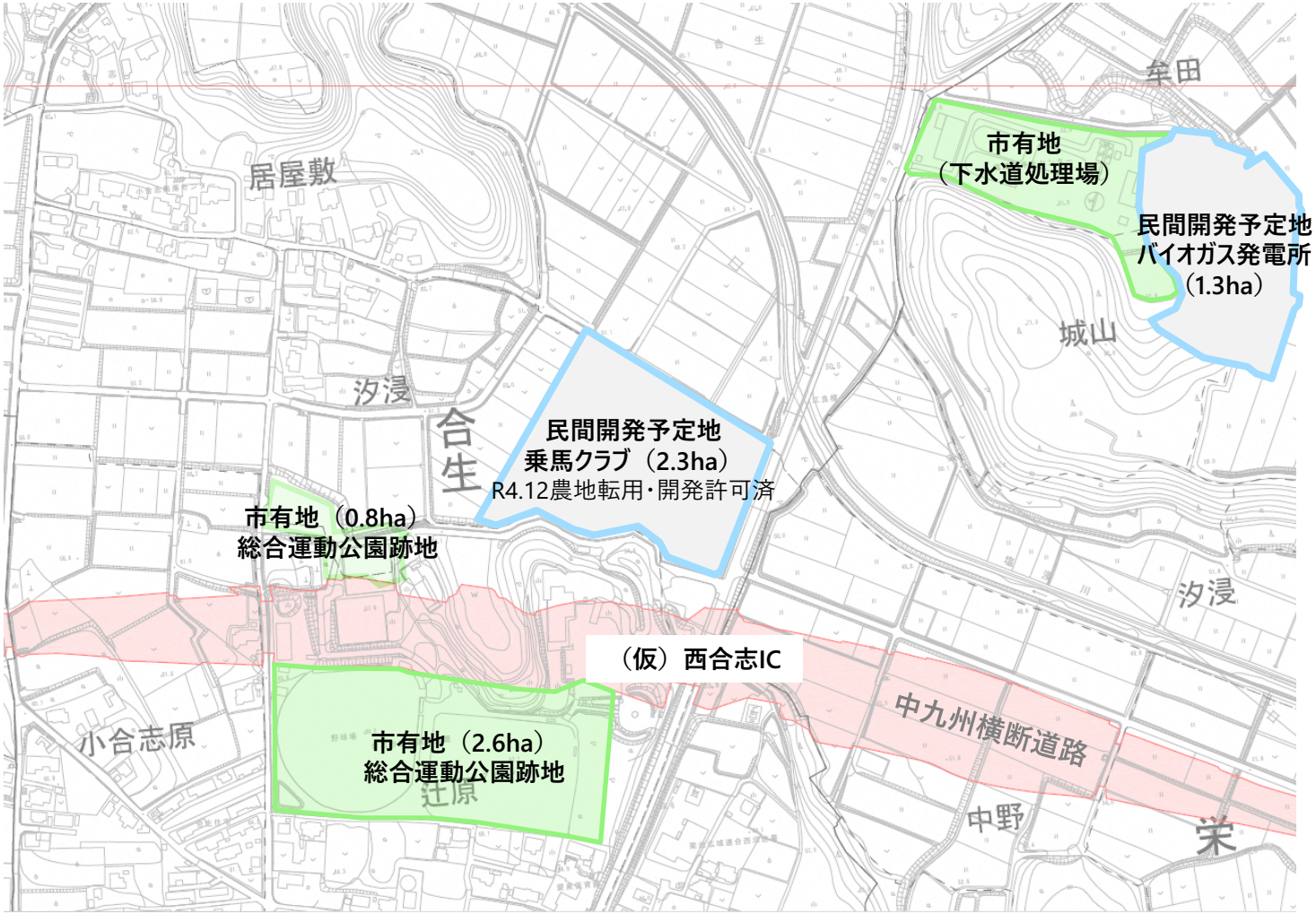


【（仮）合志IC周辺】
セミコンテクノパーク等の産業集積地に近いIC

- 国道387号及び整備予定の中九州横断道路の結節点に位置し、**将来的な広域交通利便性の向上が期待**される
- **国道387号**は現状2車線であるが、**10年以内に4車線化**を予定している
- 周辺には住宅地が広がるほか、図書館、商業施設、医療機関、教育施設などが立地し、日常生活を支える利便性の高い生活圏が形成されており、全国的に人口減少・少子高齢化が深刻化する中で、**年少人口・総人口が増加**している
- 既存の住宅地に近接していることから、**開発に伴う騒音や交通量の増加に十分配慮する必要**がある
- 近年の商業施設の出店等により、更なる居住ニーズの高まりがみられることから、**周辺地域の住環境との調和を図りながら土地利用を進める**ことが必要である
- 既存工場も多く、半導体関連企業の進出に伴う**製造業のさらなる参入が見込まれる**

総合運動公園跡地である市有地を含む（仮）西合志IC周辺のエリア一帯を想定しており、すでに乗馬クラブ2.3haならびにバイオガス発電所1.3haの民間開発が予定されています

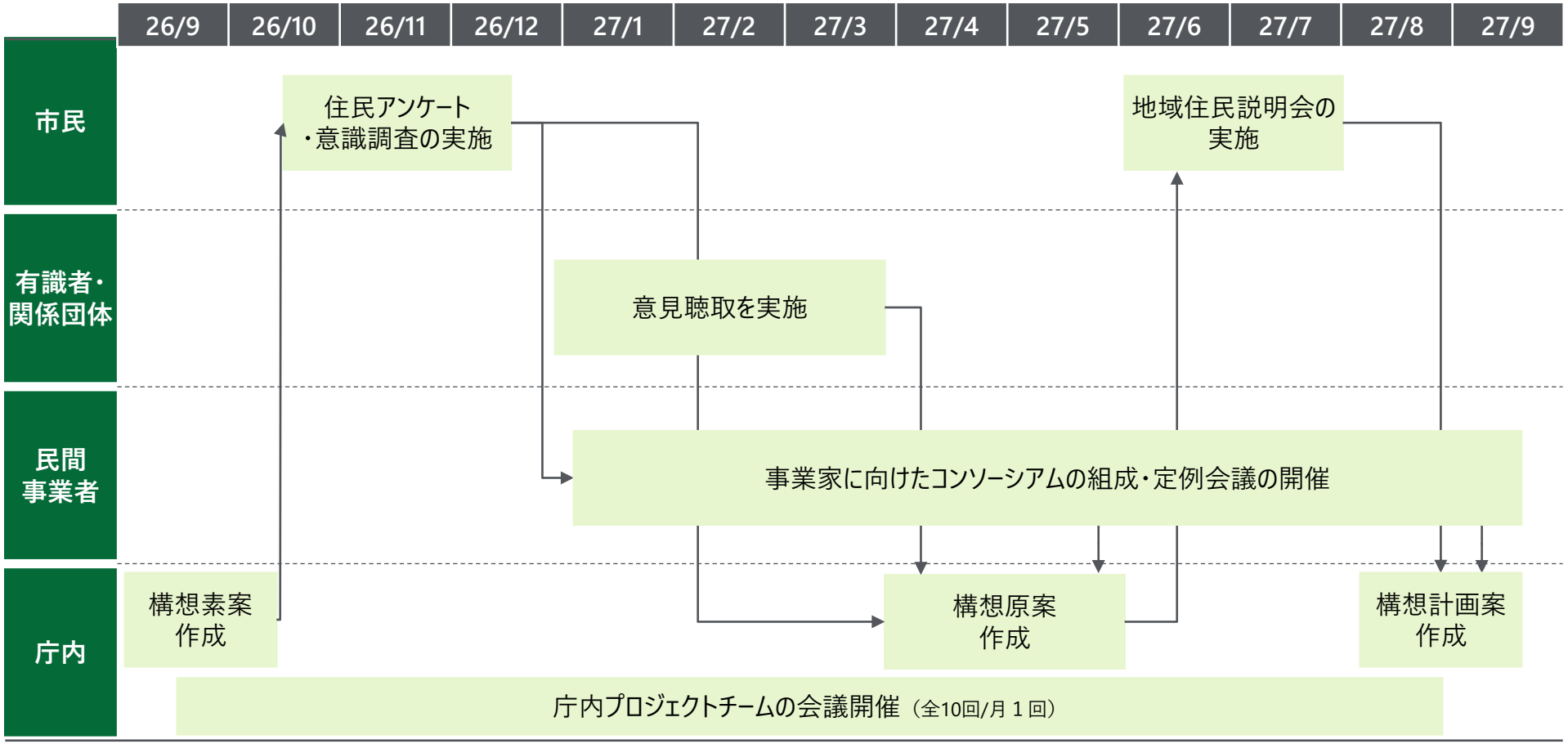
1-3. 対象地の位置・特性｜対象地の位置（拡大図）



- **私有地は農地や未利用地**を中心とした低密度な土地
- 本区域は農業振興地域ならびに農用地に指定されていることから、**農地転用には一定の制約**がある
- 区域の一部に**埋蔵文化財包蔵地が分布**しているため、開発に先立ち事前の試掘調査や発掘調査が必要になる
- 民間開発が予定されているバイオガス発電所との連携が可能
- **河川に近接する土地や高低差のある地形が多く**、造成に伴うコストやリスクを考慮する必要がある
- 豊かな緑、自然が広がる地域であり、親和性の高い機能導入が求められている

本構想の策定に当たっては、市民や有識者・関係団体から意見を聴取しながら、事業実現に向けた開発方針を民間事業者コンソーシアム内で検討します

1-4. 本構想の検討体制



本構想の理念と目指す姿

本構想は、動物との共生を起点に、多様な人々の心と暮らしを支えるウェルビーイング拠点の形成を目的としています

2-1. 基本理念



「“動物との共生”“癒し”の里こうし」の拠点整備

- 動物福祉の基盤の整備を促進し、若手人材の本市移住を促進
- 動物とのふれあい拠点となる施設を誘致することで、県内外からの関係人口創出



高齢者の心の健幸を実現

- 動物看護学校の学生や卒業生等による動物介在活動を通して高齢者の健康寿命を延伸
- ペットと暮らす独居老人の心のふれあいの場を提供



子どもの豊かな心の育成

- 小さいころから動物に触れ、世話をすることで、思いやりを育む
- 動物看護を通して、「命」に触れ、命の尊さを学ぶ



障がい者の活躍や、心の病からの社会復帰の手助け

- ペットフード加工場や植物工場を誘致し、障がい者雇用を促進
- アニマルセラピー施設を誘致し、動物との触れ合いの中で、社会復帰を図る



災害時もペットと過ごせる安全安心な里

- ペット同伴避難所を整備することで、災害時も安心してペットと暮らせる里

動物とともに生きる里山から、未来のウェルビーイングを創る

最終的には、“動物との共生”を通じて、市民のウェルビーイング向上と関連産業集積による地域経済活性化を実現する、新たな地方創生モデルの創出を目指します

2-2. 目指す将来像｜本事業で目指す姿



さらに、“動物との共生”というテーマは、世界的な成長が期待されるテーマであり、本構想を通じて全国に先駆けたモデルを確立することで、他自治体の課題解決にも貢献する先進事例になることを目指します

2-2. 目指す将来像｜本事業が世界水準の拠点となり得る可能性

人と動物の共生に関する世界市場の動向

- 人と動物の共生というテーマについては、既に国外では動物保護や動物福祉等の法制度の整備も進み、様々な施設・サービス等において一定水準の質が求められている
- そのため、世界のペット関連市場だけに着目しても、2025年時点で約1,800億～3,500億ドル（約27兆～52兆円）と推定され、今後も年率５～７％程度の成長が続き、2030年前後には5,000億ドル（約75兆円）規模に達すると予測されている
- 本構想は、人と動物の共生という世界的な成長市場へエントリーできる構想であると言える
- また、人と動物との共生というコンセプトはウェルビーイングに直結するコンセプトでもあることから、ウェルビーイングに関する世界市場も狙えるコンセプトであると言える

ウェルビーイングに関する世界市場の動向

- ウェルビーイングはSDGsに代わる新たなテーマ・投資先として注目されているが、このテーマに関する世界の市場規模は2023年に6.3兆ドル（約950兆円）に達し、2028年には約９兆ドルへ拡大すると予測されており、年平均成長率は約7.3％と世界GDP成長率を上回る見込みとされている
- ウェルビーイング市場は既に欧米では巨大市場が確立されつつあるものの、アジア地域においては今後最も成長余地が大きい地域であるとされている
- ウェルビーイング市場の主要ターゲットは富裕層やZ世代・ミレニアル世代といった若年層であることから、まだ成長途上にあるアジア地域でも有数のウェルビーイング拠点を形成することで、世界中から富裕層や若年層を観光客あるいは移住者として呼び込むことも期待できる

世界水準から見た本事業の可能性

- 国内では人と動物の共生というコンセプトからウェルビーイングへの発展を見据えた拠点開発は極めて限定的であることから、当該分野におけるアジア随一の拠点形成を狙うチャンスがあると言える
- アジア随一の拠点を形成することで、ウェルビーイングという世界的な巨大市場へエントリーすることができるため、本事業に対して世界中から投資や企業、観光客を誘致することができる可能性があると言える
- さらに、**本事業により新たな地方創生モデルを確立することで、他自治体へ展開可能な先進事例となり**、本市の認知度・ブランドイメージの向上にもつながりうる

本構想では、市民の暮らしを起点に、民間活力と地域との共創により持続可能な仕組みを構築し、新たな地方創生モデルの創出を目指します

2-3. 本構想で大切にする基本方針

01. **市民の暮らしを起点とする**	• 高齢者の健幸、こどもの心の育ち、雇用創出、防災など市民生活に根差した課題解決を出発点とし、人と動物がともに豊かに暮らせるまちづくりを目指す
02. **民間の事業性・投資可能性を重視する**	• 行政だけではなく民間事業者の知見や投資を呼び込み、継続的に運営・発展できる持続可能な事業モデルの構築を目指す
03. **地域との調和と合意形成を丁寧に進める**	• 市民・地域団体・有識者との対話を重ねながら、地域の理解と共感を得られる構想づくりを進める
04. **先進モデルを構築し全国への展開を目指す**	• “動物との共生”を軸とした全国に先駆けるモデルを構築し、本市の魅力向上と他自治体への貢献につながる先進事例を目指す

拠点形成の考え方

市民・観光客向け機能を核に需要を創出し、その需要を起点として関連企業や投資を呼び込む持続的な拠点形成を目指します

3-1. 拠点形成の基本戦略｜検討の方向性

STEP1
市民や観光客が利用できる機能の導入

- 市民が癒しを感じられる場として日常的に利用できる機能を導入
- あわせて、動物に関心を抱く国内外からの観光客が楽しめる観光拠点を形成
- 利用データ・ニーズの蓄積により、導入機能に関連する企業が参入を検討しやすい市場環境を形成

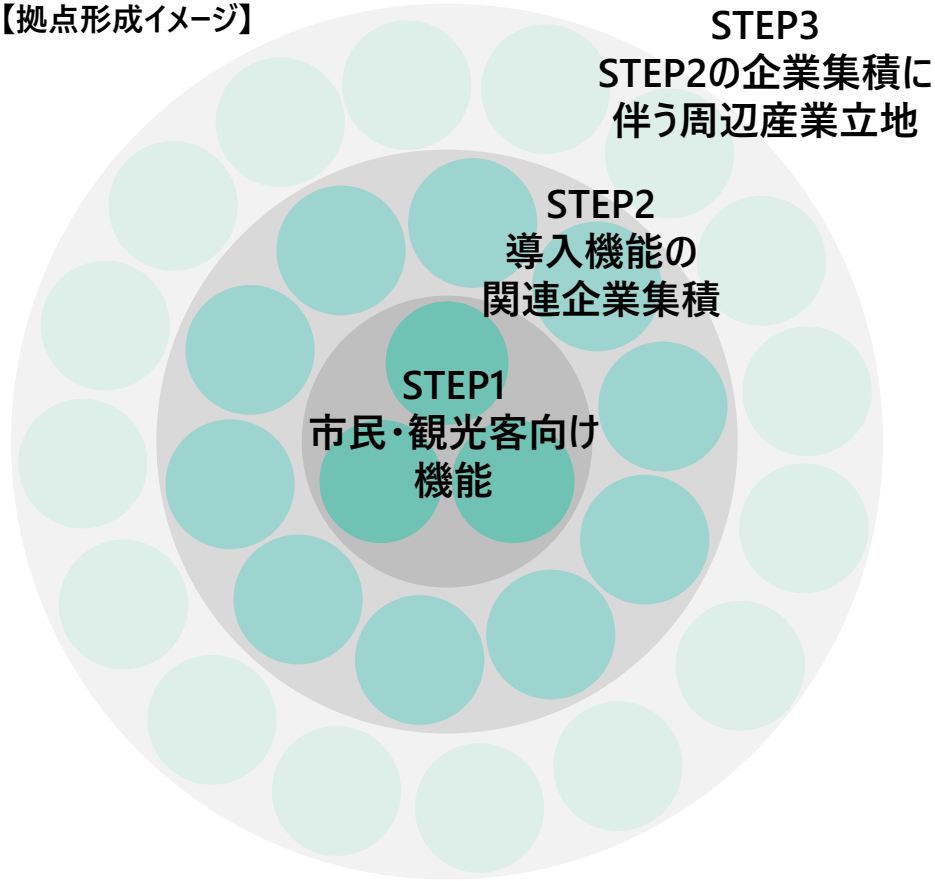
STEP2
需要創出を契機に関連企業の集積へ展開

- 導入した機能に直接関連する、ペットサービス事業者等の企業立地を促進
- 市内の雇用創出や地域経済の波及効果を生み出す

STEP3
関連企業集積に波及して更なる企業の集積

- 拠点の発展に伴い、福祉・教育・研究開発・流通等の周辺産業の企業立地を誘発
- 人材・企業・投資を呼び込む好循環を形成
- 合志市発の先進モデルとして全国への展開を目指す

【拠点形成イメージ】



市民・観光客向け機能を核に、多様な事業者が関与し、曼陀羅のように拠点を形成する

市民・観光客向け機能の形成に当たっては、コンセプト・イメージ形成だけが先行するのでなく、市民ニーズや市場性、土地の特性にも裏付けられた機能を設定する方針です

3-1. 拠点形成の基本戦略｜検討におけるポイント

産業集積の鍵

市民・観光客向け機能を起点とした産業集積を実現させるには、核となる機能の見極めが重要である

- 本構想では、「人と動物が集うにぎわい」を起点に、関連産業が段階的に集積する産業クラスタの形成を想定している。そのため、最も重要な論点は、**クラスタ形成の起点となる市民・観光客向け機能をいかに成立させるか**である。
- 来訪者や居住者が継続的に集まり、一定の市場規模が形成されなければ、関連企業の参入や周辺産業への波及は期待しにくい。一方で、魅力的な拠点形成が形成されれば、そこに需要、顧客データ、実証機会、人材が集積し、民間事業者にとっても事業展開のメリットが生まれる。その結果、関連企業の進出や投資が促進され、研究開発、製造、流通、専門サービス等の周辺産業へと波及する好循環が生まれる。

本構想をめぐる好機

本構想における産業集積は「将来性・先進性」も重要である

- **動物関連事業者への事前ソフトサウンディングでは**、海外を含め、ペット同伴可能なホテル、商業施設、住宅など、個別施設単位で「動物と人との共生」を実現した事例は存在する一方、**動物関連産業が面的に集積し、一体的なエコシステムを形成している事例はほとんど見られない**との見解が得られた。
- これは、裏を返せば、本市が動物関連産業の集積拠点として、先駆的なポジションを確立できる可能性を示している。個々の市場規模が限定的であっても、動物に関わる多様な機能・産業を集約することで、国内外から企業・人材・投資を呼び込み、**世界的にも類例の少ない「動物と人との共生産業都市」へ発展するポテンシャル**がある。したがって、市民・観光客向け機能を起点に需要を形成し、その周辺に産業を集積させる戦略は、**単なる地域内施策にとどまらず、将来的には国際的な先進モデル**となり得る。

注力すべき論点

コンセプトが先行するのでなく、市民・観光客ニーズ及び市場性にも裏付けられた機能を設定する

- 本構想の成否を左右するのは、市民への確実なニーズ将来的な市場成長性と事業性を有する市民・観光客向け機能を的確に見極め、その核となる機能を戦略的に誘致・形成することである。
- そのため、構想策定に当たっては、**コンセプト・イメージ形成だけが先行するのでなく、まずアンケートや説明会を通じた市民のニーズ把握や業界・市場の動向、対象地周辺の状況を調査・分析し**、現在の市場だけでなく、将来的な社会変化、投資動向、周辺産業への波及可能性等も踏まえながら、**今後成長が期待されるような機能を特定**する。

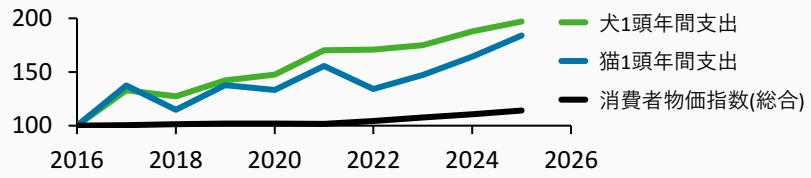
動物関連産業は、4つのトレンドを背景に、ペットを「物販・飼育」から「家族・コミュニティ形成・医療・データを束ねる産業」へ拡張しています

3-1. 拠点形成の基本戦略 | 動物関連産業を取り巻くトレンド分析

01. ペットの家族化

✓ペット関連支出は、物価上昇を上回るペースで増加しており、「単価向上型」の市場成長が進んでいる
✓ペットを「家族の一員」として捉える意識が支出を押し上げ、**プレミアム商品・サービス**の需要が拡大

＜国内犬・猫1頭あたり年間支出額とCPIの指数比較(2016年=100)＞



拡大が期待される事業例 高価格帯トリミング・フード、同伴滞在サービス

02. アニマルセラピー・コミュニティ形成

✓ペットとの共生や、動物とのふれあいによるコミュニティ形成を目的とした事業・活動の機会は徐々に増えつつある
✓人と動物の関係が、癒しに加えて健康維持・孤独軽減・情操教育・地域コミュニティ形成へ拡張

＜「ペット可」物件割合＞
※LIFULL HOME'S掲載数

2022年 12.9%
2025年 19.3%

＜JAHAアニマルセラピー活動回数＞
※JAHA:公益社団法人日本動物病院協会

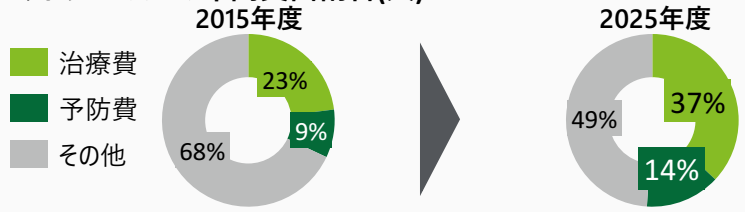
2017年 約19,000回
2024年 約23,179回

拡大が期待される事業例 ペット共生型住宅、高齢者施設でのアニマルセラピー

03. ペットヘルスケア

✓10年間を通じて、ペットサービスにおける支出に占める治療費・予防費割合が約1.5倍へと成長し、ヘルスケア産業のニーズ拡大が進んでいる
✓飼い主の意識は「治療」だけでなく「予防」にも向き、予防医療・保険・検査が成長領域に

＜ペットサービスへの年間支出割合(犬)＞

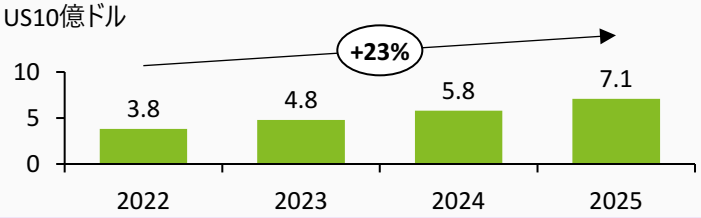


拡大が期待される事業例 ペット保険、シニアペットケア、動物病院、ワクチン

04. ペットテック

✓世界のペット用ウェアラブル市場は急速な拡大を遂げている
✓AI・IoT活用が進み、GPS、スマート給餌、健康モニタリング、見守り、AI行動解析が普及

＜世界のペット用ウェアラブル市場規模＞



拡大が期待される事業例 AI行動解析、遠隔見守りカメラ

出典：ペット関連市場マーケティング総覧、Grobal Market Insaights「Pet Wearables Market Size & Share 2026-2035」

本構想の基本理念やトレンドを踏まえ、市民・観光客向け機能はペット共生型ライフスタイル拠点／動物ふれあい・学び拠点／ペット共生型ヘルスケア拠点／ペットテック体験拠点等を想定しています

3-2. 導入機能の方向性 ｜ 想定される導入機能（案）

※本イメージはあくまで基本構想素案段階での想定であり、今後の検討・協議によって変更となる場合がある

核となる市民・観光客向け機能	対応トレンド	集積が期待される事業	更なる波及が期待できる事業
ペット共生型ライフスタイル拠点 例）ペットリゾート、人・動物同時スパ、フォトスタジオ、人・動物シェアフード飲食店、交流広場、ペット同伴避難所	01.ペットの家族化 02.アニマルセラピー・コミュニティ形成 03.ペットヘルスケア 04.ペットテック	✓ ペットサロン事業者 ✓ ペットホテル・共生住宅事業者 ✓ ペットフード小売事業者	✓ リラクゼーション事業者 ✓ 不動産事業者 ✓ 広告・マーケティング事業者 ✓ 観光・レジャー事業者 ✓ アウトドア事業者 ✓ 食品事業者
動物ふれあい・学び拠点 例）アニマルセラピーセンター、動物介在介護施設、子ども向け体験学習施設	01.ペットの家族化 02.アニマルセラピー・コミュニティ形成 03.ペットヘルスケア 04.ペットテック	✓ 教育事業者 ✓ 福祉事業者	✓ 教育用教材開発事業者 ✓ 子育て支援事業者 ✓ 介護機材・用品開発事業者 ✓ 介護IoT・モビリティ事業者 ✓ 障がい者支援事業者 ✓ 就労支援事業者
ペット共生型ヘルスケア拠点 例）人・動物同時健康診断施設、ペットの健康予防情報展示エリア	01.ペットの家族化 02.アニマルセラピー・コミュニティ形成 03.ペットヘルスケア 04.ペットテック	✓ 動物医薬品開発事業者 ✓ ペット保険事業者 ✓ 動物病院	✓ 研究開発・R&D事業者 ✓ リハビリ・メンタルケア事業者 ✓ 医療系スタートアップ事業者 ✓ ヘルスケアデータ関連事業者 ✓ サプリメント事業者 ✓ 再生医療関連事業者
ペットテック体験拠点 例）ペットウェアラブル貸し出し・販売、スマートドッグラン	01.ペットの家族化 02.アニマルセラピー・コミュニティ形成 03.ペットヘルスケア 04.ペットテック	✓ ペットIoT・AI・アプリ開発事業者 ✓ データビジネス事業者	✓ ロボティクス事業者 ✓ 半導体・センサー事業者 ✓ スマートシティ事業者 ✓ 通信事業者 ✓ AIスタートアップ ✓ デジタルヘルス事業者

市民利用を主とする機能は、市民が動物とふれあい、日常生活の中で癒しや健康、学び、交流が実現できるぬくもりのある空間形成を想定しています

3-2. 導入機能の方向性｜【参考】市民向け機能の拠点イメージ

※本イメージはあくまで基本構想素案段階での想定であり、今後の検討・協議によって変更となる場合がある













 Created with Copilot

市民利用だけでなく、一部エリアには観光客が楽しめる空間も内包し、広域圏からの流入も促進することを想定しています

3-2. 導入機能の方向性｜【参考】観光客向け機能の拠点イメージ

※本イメージはあくまで基本構想素案段階での想定であり、今後の検討・協議によって変更となる場合がある











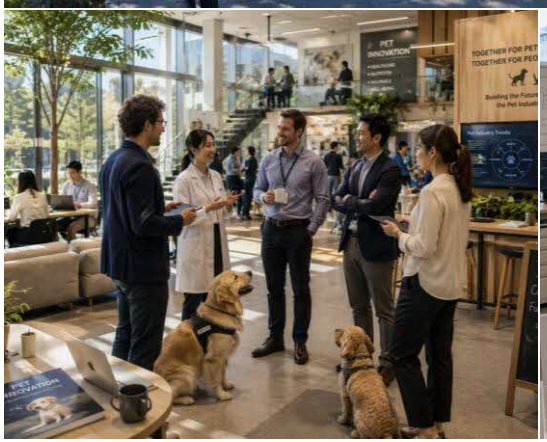
 Created with Copilot

市民・観光客向け機能から波及して関連企業の集積を促し、市内の雇用創出や合志市発の新たな技術・サービスを創出する拠点の形成を目指します

3-2. 導入機能の方向性｜【参考】関連企業集積拠点イメージ

※本イメージはあくまで基本構想素案段階での想定であり、今後の検討・協議によって変更となる場合がある









 Created with Copilot